

2023年度の主な事業報告書 (2023年4月1日～2024年3月31日)

■事業実施の概要について

【森林が持つ機能を最大限に発揮するための「協働」の取り組み】

- ・山麓アクションプログラムに基づき、森林が持つ公益的な多面的機能を最大限に発揮する森づくりを目的として、市民が主体的に一定の役割を担う「協働」の取り組みを進めました。
- ・NPO法人設立20周年の節目に当たり、これまでの歩みを振り返るとともに、近年、温暖化で増加が懸念される自然災害の脅威、増えすぎたシカによる森林生態系の劣化、山林所有者の山との関わりの低下など、箕面の山をとりまく環境変化に対応した、これからの保全のあり方について、関係者や市民と課題の共有を図りました。
- ・活動に必要な資金や労力を山林所有者や行政だけに求めるのではなく、豊富なネットワークやノウハウ、人材を活かして、情報の共有化と意見交換を目的とした協議会活動や災害に強い森づくりの活動、山林整備ボランティアの育成や山林整備サポートなどの活動に注力しました。

【箕面市の補助金事業による山麓保全活動の着実な推進】

- ・箕面市の「みのお山麓保全活動補助金事業」を受けて、山麓保全活動を着実に推進しました。
- ・山麓保全委員会が山林所有者や市民団体に助成金を交付して山麓保全活動を行う事業、および山麓保全委員会が独自で行う事業の二本立ての仕組みで活動を行いました。

【「自然緑地」の同意率向上と山林整備サポート強化に注力】

- ・2023年度は新規の自然緑地の同意件数が**2件**(同意面積8,313㎡)増加しました。
- ・山林整備ボランティア派遣は**61件**を受託、昨年より5件増加しました。毎年増加する山林所有者からの要請に応えるため、人材育成を目的とした山林整備ボランティア養成講座を2回開催。山林整備サポートには、**591人日**の山林整備ボランティアが参加、参加者は昨年より54人日増えました。

① ネットワークを活かした「協働」の活動

＜ネットワーク事業＞

～情報の共有化と意見交換による新しい活動の場づくり事業～

① 明治の森箕面自然休養林管理運営協議会との「協働」の活動

- ・国、府、市などの行政と市民団体で構成する協議会の事務局を担い、協議会例会を年7回開催し、情報の共有化と意見交換により、市民による自発的な行動発生の場となるように努めました。

○簡易な環境整備の活動

- ・勝尾寺園地に間伐材を活用したベンチ6台を設置し、エキスポ記念の森「花の谷」にマナー啓発のための看板を設置しました。



間伐材で製作したベンチ

○安心・安全を目的とした「道標や案内板」整備の活動

- ・道標や案内板の整備活動を市民が中心となって継続し、新規に11ヶ所の緊急ポイントの道標を設置した他、8ヶ所の緊急ポイントをA4サイズの看板に付け替えました。



箕面の森の道標(新規)

○自然休養林の活用や生物多様性保全の活動

- ・山間山麓部の文化や歴史への理解を深める活動として、ハイカーによる国史跡「八天の石蔵」巡りのルール作りなどを行いました。
- ・巨樹・大樹調査を実施し、データベース化を進めました。
- ・清水谷での防鹿ネットの管理や植生調査を行うなど、生物多様性保全の活動を継続しました。また、「花の谷」のビオトープに生息する特定外来生物「ウシガエル」の捕獲駆除を行いました。

○増えすぎたシカによる食害対策の継続

- ・大阪府の生物多様性センターによるシカの生息数調査に協力し箕面の山パトロール隊、みのお里ぷらなどによる自動撮影カメラの維持管理やデータの回収や送付を継続しました。



緊急ポイント

②、自然環境保全と適切な観光戦略の推進の活動

- ・箕面観光戦略の重点施策の実践フェーズとしての「箕面観光戦略推進委員会」および「重点施策会議」の委員として参加し、国・府など行政を含む多様な関係者との情報の共有化を進めました。

③、「こもれびの森」などでの植樹など森づくりの活動

- ・市民の憩いの場、水源かん養、土砂流出防止など「生活環境保全林」としての機能や生物多様性の保全など、公益的機能発揮のため、市民団体との「協働」の取り組みを継続しました。
- ・3月20日、こもれびの森で植樹を行いました。こもれびの森は2018年の台風被害後、大阪府が作業道を作って倒木を除去し、防鹿柵を設置した後に、2020年度以降毎年、ヤマザクラやクヌギのほか、花のなる木などを植樹しており、今年で5年目となります。山麓保全委員会のほか、7つの市民団体から計29名が参加してクヌギ、ウリハダカエデなど計110本を植樹しました。

| | | | |
|---------|-----|------|------|
| クヌギ | 44本 | アセビ | 23本 |
| ウリハダカエデ | 31本 | ヒサカキ | 6本 |
| ヤマモモ | 6本 | 計 | 110本 |

昨年6月、雨の影響で斜面が大きく崩落した防鹿柵外の作業道にシカが侵入しないよう、シカの通り道に防鹿ネットを設置しました。

- ・3月10日、教学の森ハート広場(箕面市有林)で、「オルタナの森(青少年教学の森野外活動センター)と共催で植樹を行いました。ハート広場は、数年前にナラ枯れ被害が著しかったエリアであり危険木として伐倒された跡地を中心に、35名の参加者により34本のクヌギを植樹しました。
- ・こもれびの森および教学の森に植樹したクヌギの苗木は、住友ゴム工業(株)から無償提供を受け、ウリハダカエデは公益財団法人京都市森林文化協会から購入しました。
※別途、クヌギの苗木40本を、山麓部で山林整備活動を行っている3つの市民団体に提供しました。
- ・防鹿ネットなどの資材やウリハダカエデの苗木購入費は、山麓委員会に寄せられた災害復興募金を活用しました。
《災害復興募金(預り金)の活用》
2023年度は、シカ害対策の備品や苗木調達費として404,915円を活用
- ・こもれびの森・教学の森の防鹿ネット&ポールなどの資材費:363,275円
- ・苗木購入費及び苗木調達のための費用:41,640円



こもれびの森での植樹



教学の森での植樹



防鹿ネットを設置

2. 山林所有者との関わり強化の活動

《山林所有者関連事業》

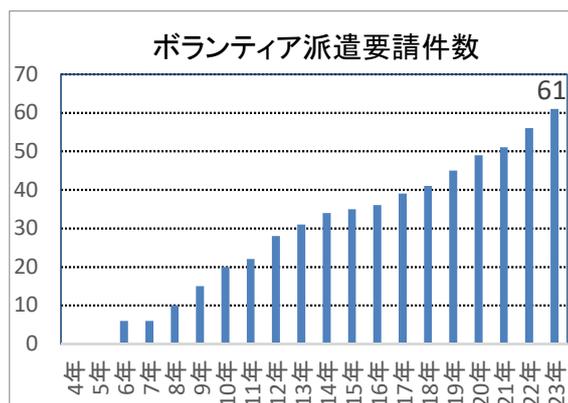
～山麓部の80%を占める民有地の課題に向き合う事業～

①、山林所有者へのPR・広報

- ・2023年度の助成は89件、9,200,300円。前年より3件増加
- ・2023年度の新規自然緑地の同意件数は2件でした。

②、山林整備ボランティアの派遣

- ・山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は61件(前年より5件増)の要請があり、延べ591人日(前年は537人日)のボランティアが、主に風倒木の処理などの山林整備活動を行いました。
※粟生間谷地区の1件、66人(前年81人)を含む。



③、山林所有者の悩み相談

- ・山林所有者を対象とした”悩み相談”チラシの配布を行い、計13件の相談を受けました。
- ・高齢化が進む山林所有者からは、相続に関する相談やボランティア派遣の問い合わせが多く寄せられました。



3. 山で活躍するボランティアや活動団体の育成

～課題に向き合い、活動を担う人材や組織を育成する事業～ 《人材・組織育成事業》

①、「みのお森の学校」による山麓保全活動の人材育成

- ・2023年9月からの第19期(2024年6月修了)の人と自然の入門講座「みのお森の学校」は、受講生18人の参加で開催しました。
- ・第19期から、開催日を1日増やして、全12回開催、受講料を15千円で開催しました。※18期までは全11回開催、受講料は13千円



みのお森の学校

②、「山林整備」を担える人材の育成

- ・年々増えている山林所有者からのサポート要請に応じて、活動を行うためのボランティア育成講座を2回開催し、13人が参加しました。 ※5/27(7名)、10/28(6名)



山林整備ボランティア養成講座

③、ボランティア活動の安全管理のための啓発講座の開催

- ・8月5日、「安全で楽しいボランティア活動をみんなで考えよう!」をテーマに、2名の外部講師(大阪ボランティア協会、日本森林ボランティア協会)を招き、ボランティア活動の安全管理の啓発講座を開催しました。講座には、日ごろ山林整備などのボランティア活動を行っている市民団体などから72人が出席しました。
- ・10月14日、2023年度の民有林の整備ボランティア活動が10月後半から始まるのを前に、作業のさらなる安全を期すために、今年度の活動に参加希望のサポーターを対象に「安心安全管理講習会」を行いました。また、現場管理者の監督強化を図るなど、安全作業マニュアルを一部改定しました。



安全管理のための啓発講座

④、市民ボランティア組織の活動支援

- ・みのお山麓保全活動助成金を申請した新規の団体などを対象に、中間支援組織の立場で、スムーズに活動が実施できるよう、支援に努めました。

⑤、20周年記念イベント開催と「みのお山麓保全ガイドブック」の頒布

- ・NPO法人設立20周年の記念イベントとして、7月17日に箕面文化交流センター大会議室で、「山麓保全の活動を振り返り、箕面の山の未来をみんなで考える」シンポジウムを開催し、78人が参加しました。
- ・20周年を記念して「みのお山麓保全ガイドブック」(A4両面カラー28ページ)を作成、記念イベントで頒布しました。



20周年記念イベント

⑥、「みのお森のセラピー」事業の再構築

- ・冬季にセラピーアシスター養成講座を開催し、5人が受講しました。
- ・ビジターセンターで「森の癒しウォーク」を継続したほか、セラピーとともに音羽山荘のお弁当を西江寺で食べる新企画を実施しました。 ※森の癒しウォーク参加者:27人(6回開催) ※With西江寺で季節のお弁当参加者:28人(2回開催) ※林野庁セラピー(箕面ふれセン事業)参加者:20人(2回開催) ※フリーセラピー参加者:24人(3回開催)



森のセラピー

4. 事業への参加や理解と協力を得るための活動

《PR・広報事業》

～市民・会員・市民団体および行政など関係者へのPR・広報の事業～

- ①、ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開
・ハイキング道の安全情報などを中心に、精力的に「ブログ」を更新(177回/年)しました。あわせて、トピックスやイベントカレンダーを更新するなど、山麓保全に関する情報の発信に努めました。
・山麓保全活動の助成結果や山麓保全委員会の活動などの情報公開を行ったほか、箕面ビジターセンターのイベント情報などを発信しました。
- ②、ニュースレター「山なみ通信」の発行
・広く山麓保全活動に対する情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年4回(4・7・10・1月)発行し、計6,000部を配架しました。
・関係各所に配架するとともにNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」サポート会員など、各回約500人にDM発送を行いました。
- ③、啓発イベントの開催と出展支援
・4月23日(日)、みのおキューズモールEASTエリア1階広場で、「ふれあい広場 箕面の山と遊ぼう!」を開催しました。スタッフ78人、参加者は延べ1,840人でした。
・9月24日、山とみどりのフェスティバル「箕面の森 シカ害対策 研究フォーラム」を開催しました。増えすぎたシカによる被害が深刻さを増すなかで、箕面の森をどうやって守っていくか、をテーマに、行政担当者や専門家を招いての研究フォーラムを開催、56人が参加しました。
・11月3日、箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場に、体験フェア「山とみどりのフェスティバル」を開催。箕面公園瀧安寺前広場では、親子で楽しむ自然素材を使った工作や木こり体験のほか、紙芝居の上演や音楽演奏、各団体のPR活動が行われました。スタッフ128人、来場の参加者は延べ2,861人でした。



HP(みのお山なみネット)



山なみ通信



生物多様性フォーラム/シカ害対策



山とみどりのフェスティバル/体験フェア

5. 山麓保全活動助成金の活用と円滑な運営のための活動

《山麓保全助成金交付事業》

～みのお山麓保全活動助成の仕組みを活かし、適正な執行を図る事業～

- ①、助成申請の促進、審査会開催、助成金交付など
・箕面市の補助金規定に基づいた助成金交付規定や審査会規定に則り、2023年9月、2024年3月に審査会を開催しました。
・助成金申請書の受け付け、取りまとめ、議事録の作成、箕面市への書類作成などの助成事務全般を実施しました。
・JAバンクに助成金専用の銀行口座を開設し、助成金の振り込みに係る業務(計105件)をインターネットバンキングで行いました。
山林所有者への活動助成・・・2023年:計89件、9,200,300円
市民団体への活動助成・・・2023年:計16件、1,857,600円



山林整備サポート



森のセラピー
スギ・ヒノキ林の整備

《山林整備サポート活動の推進》

- ・山林所有者からの山林整備サポート要請を受け、山林整備活動を行う5団体(みのお里ぶら、箕面の森のきこり隊、みのおフォレストーズ、箕面マウンテンバイク友の会、今井水利組合)に委託した計61件の山林整備サポート活動の円滑な推進を図りました。

②、助成事業の支援や進捗確認など

- ・山麓保全活動の助成を受けた団体や山林所有者の活動の確認、および提出された報告書の内容のチェックなどの事務を着実に行いました。

6. 箕面ビジターセンター企画運営事業

《ビジターセンター事業》

大阪府から受託した箕面ビジターセンターの企画運営業務(受託業務期間/2024年9月30日まで)では、提案した内容を着実に実行するとともに、明治の森箕面国定公園の拠点施設としての機能強化に努めました。

①、自然解説活動

○自然解説員の配置

- ・年227人/日の解説員を配置し、ハイキング道の案内や季節の自然情報などの発信を行いました。

○自然観察会などのイベントの実施

- ・観察会や工作教室などを年間61回計画し、年57回(前年は57回)開催しました。※雨天中止は4回。
※参加者数809人(前年721人)、イベントスタッフ数288人(前年296人)

○小学校・団体の活動受け入れ再開

- ・新型コロナウイルスの感染症分類の5類移行に伴い、休止していた小学生などの団体の受け入れを再開しました。 ※6月1日、箕面東小学校4年生2クラス計67名

○展示室の企画運営

- ・展示室入口に入館者カウンターを設置、入館者は年間6,988人(前年は7,016人)でした。
- ・1階正面入り口での大型モニターによる箕面の自然と生き物を紹介する映像放映を継続しました。
- ・その他、季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。

○自然情報誌の発行

- ・年4回自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」を発行し、会員や「箕面の森の守りびと」会員などにDM発送したほか、箕面ビジターセンター以外の公的機関などに配架しました。

※2,500部×年4回、計10,000部を発行

②、企画活動

- ・年7回「友の会」(企画会議)を開催し、自然解説業務の企画検討を行いました。箕面ビジターセンターだよりや展示室企画、自然観察会、自然解説員の配置計画の検討などを行ったほか、自然情報やハイキング道の安心・安全情報の共有化を図りました。

③、PR・広報活動

- ・ホームページ「山なみネット」で、ビジターセンターのイベントや自然情報や安心安全情報を発信したほか、イベント開催のチラシを作成し、各所に配架しました。

7. 事業推進について

①、寄付金

- ・災害に強い森づくりなどの山麓保全活動に共感していただいた個人や団体からの寄付金は、1,074,085円となりました。

②、事務所移転

- ・箕面文化・交流センターが2023年度末(2024年3月31日)をもって、建て替えにより閉館となったため、山麓事事務所を移転しました。
- ・事務所移転に関わる費用の多くは、山麓保全委員会に寄せられたご寄付を活用させていただきました。

《事務所移転に関わる主な費用》

- ・床フローリング工事:167,000円
- ・看板工事2ヶ所:67,000円
- ・玄関ドア取り換え・網戸設置工事:387,200円

(注記) その他の事業の実施はありません。

